

道徳の時間学習指導案

- 1 日時 平成28年7月6日(水) 第4校時
- 2 学年 第2学年 34名
- 3 主題名 「勇気をもって」 内容項目 1-(3) 善悪の判断・勇気
【特別の教科 道徳編 A-(1) 善悪の判断】
- 4 ねらい 主人公の「ぼく」がまちがった行動をしているのぼるに注意するかしないかを考え、交流することを通し、正しい行動を愛し、勇気をもってそれを行おうとすることができる心情を培う。
- 5 資料名 「おれたものさし」 (出典：道徳みんなたのしく 東京書籍)

6 主題設定の理由

- 本主題は、学習指導要領第1学年及び第2学年の指導内容1-(3)よいことと悪いことの区別をし、よいと思うことを進んで行う。」をもとに設定した。人としてやってよいこと、社会通念として、してはいけないことを自分で区別したり、判断したりする力は、児童が幼い時期から徹底して身に付けていくべきものである。それとともに、より積極的に健康的な自己像を描くことができるようにすることが大切である。そのためには、何事にも積極的に取り組む姿勢が必要となるが、その原動力が勇気であり、自分を信じる姿勢であると考えられる。ただし、それは、過信や自分勝手ではなく、よいと思ったり正しいと判断したりすることができる力を伴った自信や勇気でなくてはならない。よいこと、正しいことについて、人に左右されることなく、自ら正しいと信じるところに従って行動することは、人として重要なことである。

学級での友達関係および力関係をよく知っている児童たちにとって、力の強い子の不正に対して、勇気を出して指摘するという事は、現実には難しい。それだけに、本資料は、登場人物の葛藤する気持ちがよく分かり、「ぼく」のとった態度に共感できる分かりやすい資料である。「ぼく」と同様に葛藤する過程を通して、子どもたちが生活上の問題に直面したとき、状況を多面的に深く考え判断できる力を養うとともに、みんなが楽しく過ごすには、勇気をもって行動することが自分に期待されていることを知るのに適した資料である。そして、実際に生活の中で問題に直面したとき、少しの勇気を与えてくれる資料でもある。

- 本学級の児童は、事前アンケートの結果から、友達のよくない行動に気が付いたら、注意したり先生に伝えたりと何らかのアクションをおこす児童が96%いる。主な理由は、悪いことだから当然と考えている。但し、力の強い相手になると躊躇し、こわいから注意できなかつたり、言っても聞いてもらえなかつたりするから先生に言ってもらおうと考える児童が23%いる。よくない行動をしている人のことを思って注意しようとする児童は、残念ながら1人だけであった。一方、友達のよくない行動にあまり気付いていない児童が23%もいる。このままだと傍観者になってしまいかねないという課題もみえてきた。

また、まだ集団生活に十分に慣れていないこともあり、(後略)

- 指導に当たっては、導入時に、力の強い子の言動に怖さを感じることをある場面を想起させ、本時の資料に共感しやすくしておきたい。また、ワークシート「心の停留所」を使って、学習前に、不正に対して注意できるかできないか自己を見つめさせることで、本資料を自分のこととして捉えやすくしたい。

展開前段では、資料を途中までしか提示せず、不正場面を目にした「ぼく」のその後の行動とそういう行動をとる理由を考えさせることで、主人公の「ぼく」という隠れ蓑を使って、自分の中に潜む意識を掘り起こさせたい。また、発表するときには、行動は二者択一ながら、微妙な心のうちを表現できるように、自分の心情を加味した場所に、全員ネームプレートを貼らせる。そして、その場所を選んだ理由を交流することで、多様な考え方や感じ方に接することができるようにしたい。また、さらに物事を多面的・多角的に考えられるよう、周りで見ている児童の「ぼく」への期待を想像させることで、不正に対する自分の正しいと信じる言動に勇気をもたせたい。

展開後段では、再度ワークシート「心の停留所」を使い、学習を終えた今、不正に対して注意できるかできないか自己を見つめさせることで、自分の生活にもどすとともに、自分の道徳的成長を実感させたい。

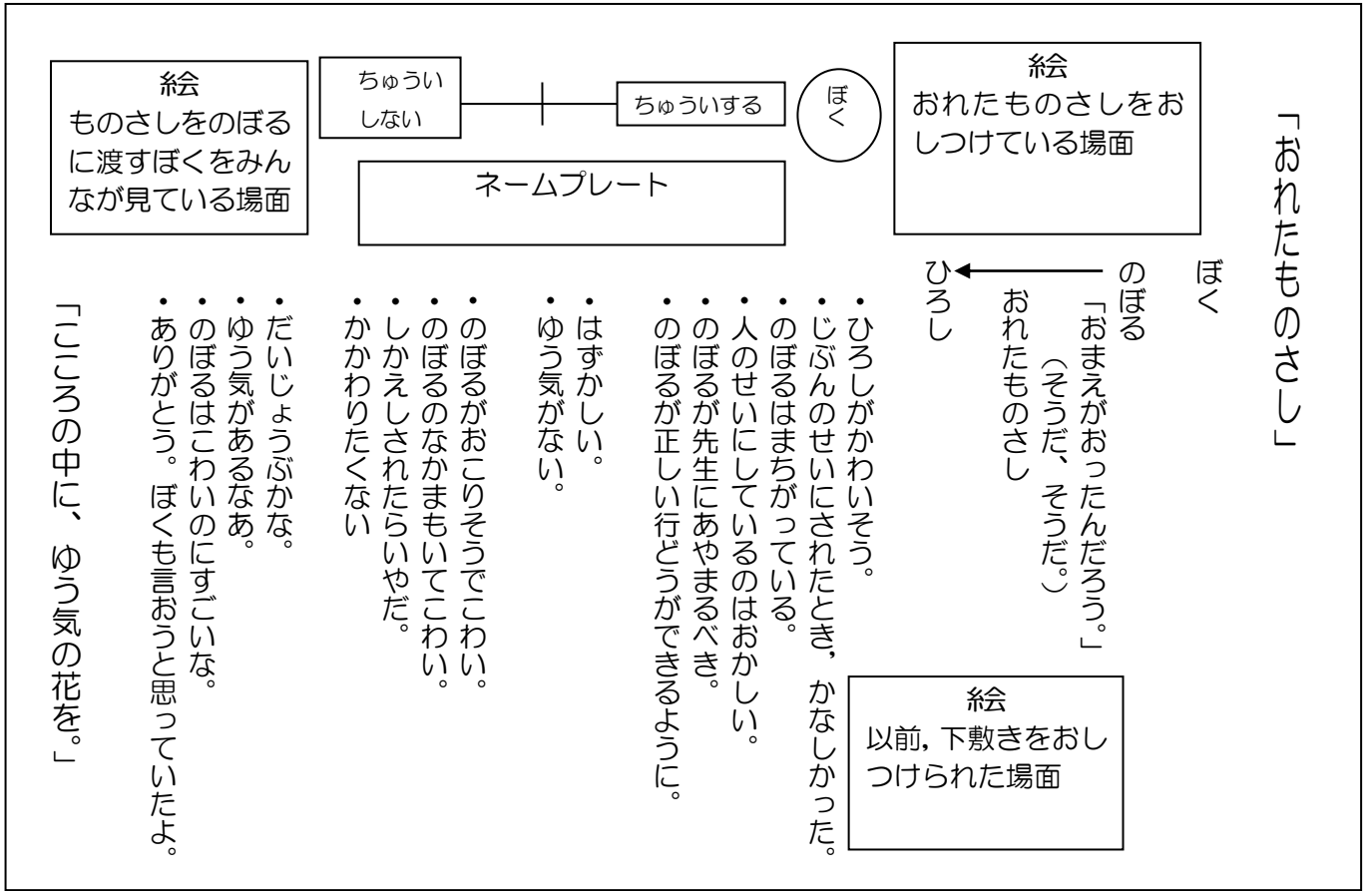
終末では、以前の学習で出てきた、「相手を怖いと感じても、勇気をもって、正しい行動をする方がカッコいい。」という児童の言葉を引用しながら、自分の心に「勇気の花をさかせられるといいね。」と伝え、実践意欲につなげたい。

また、授業以後、何か問題行動の場面に出くわすたび、学級目標の「みんな笑顔」になるために、今回見つけた「自分の心に、勇気の花をさかせよう。」という言葉で、自分の生活を振り返らせていきたい。

7 指導過程

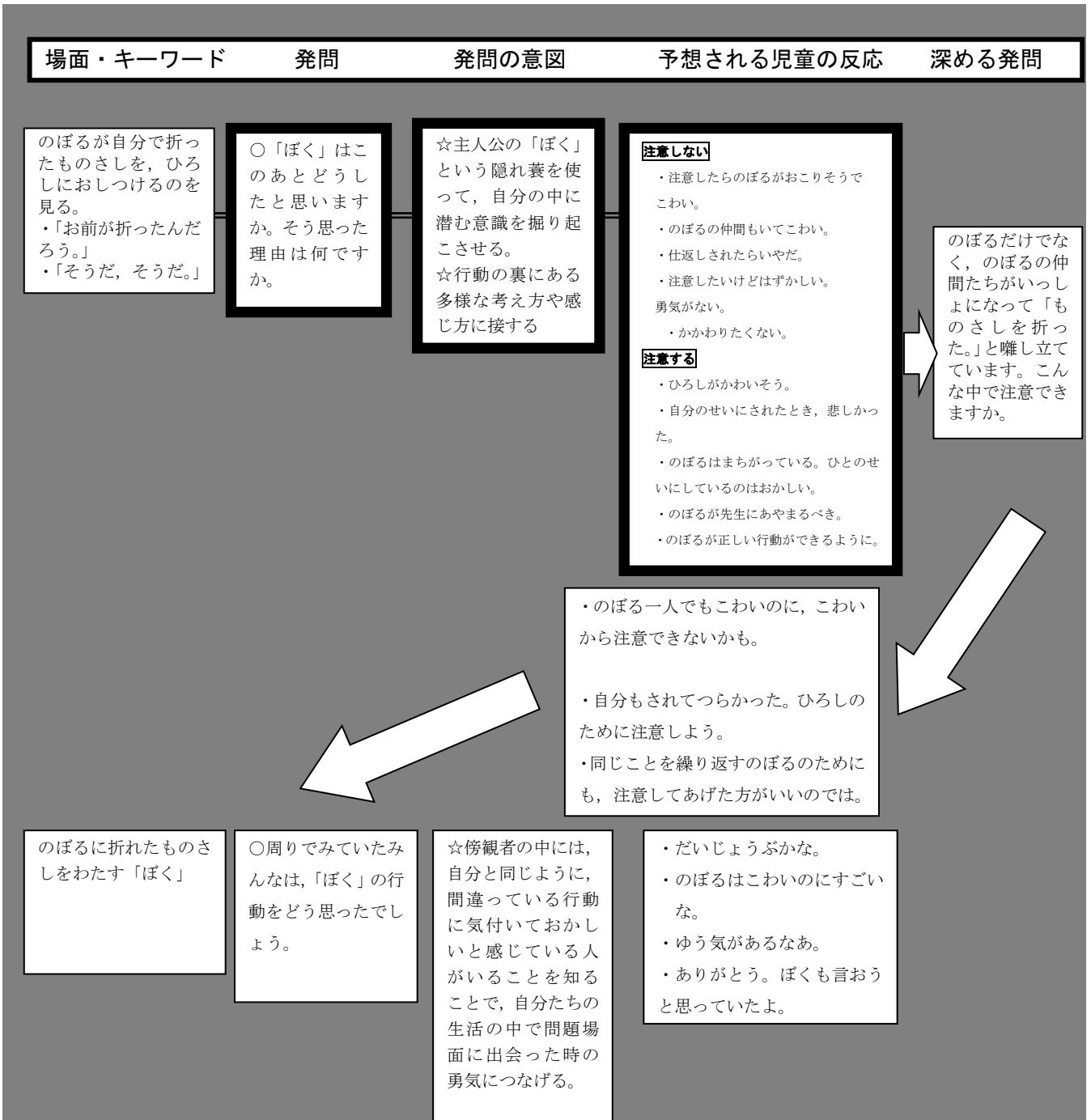
学習活動	主な発問と児童の心の動き (主な発問 (○), 中心発問 (◎), 予想される児童の反応 (・))	指導上の留意点 (○支援 ☆児童への評価の観点 ★指導者への評価の観点)
<p>導入</p> <p>1 本時の資料の主人公のおかれた状況に近い生活場面を想起する。</p> <p>2 ワークシート「心の停留所」に、自分の心情に近いところへ印をつける。</p>	<p>○友達に、言い返されたり文句を言われたりして、こわい思いをしたことはないか。または、そういう場面を見てこわいと感じたことはないか。</p> <p>・ある。言ったことでたたかれた。大声で言い返された。言われている人を見た。</p> <p>・ない。</p> <p>○自分の生活を振り返ったとき、自分の今の状況に近いところに停留所の印をつけよう。</p> <p>・「よくないと思ったら注意する。」～「よくないと思っても注意しない。」の間</p>	<p>○相手の名前は出さずに事実のみ発表させる。</p> <p>○力の強い児童に対してこわいと感じることがあることを共通理解させ、本時の主人公のおかれた状況への布石とする。</p> <p>○自己を見つめ、資料と出合った時に、自分のこととして考えやすくする。</p>
<p>展開前段</p> <p>3 資料「おれたものさし」(途中まで)を聞き、「ぼく」の葛藤について考える。</p>	<p>◎「ぼく」はこの後どうしたと思うか。また、その理由は何か。</p> <p>注意しない</p> <p>・注意したらのぼるがおこりそうでこわい。</p> <p>・のぼるの仲間もいてこわい。</p> <p>・仕返しされたらいやだ。</p> <p>・注意したいけどはずかしい。勇気がない。</p> <p>・かかわりたくない。</p> <p>注意する</p> <p>・ひろしがかわいそう。</p> <p>・自分のせいにされたとき、悲しかった。</p> <p>・のぼるはまちがっている。ひとのせいにしてるのはおかしい。</p> <p>・のぼるが先生にあやまるべき。</p> <p>・のぼるが正しい行動ができるように。</p> <p>(補助発問)</p> <p>○のぼるだけでなく仲間たちもいっしょになって、「ものさしを折った。」とはやしたている。こんな中で、注意できるだろうか。</p>	<p>○問題場面が把握しやすいよう、挿絵や掲示資料(言葉)を使いながら資料を読み進める。</p> <p>○ワークシートに、選んだ行動とその理由を書かせることで、自分の考えがもてるようにする。</p> <p>☆判断した理由を考えながら自分の意見を持つことができたか。(ワークシート、発言)</p> <p>○自分の心情をカラーサインで表すとともに、心情に近い所に、ネームプレートを貼ることで、それぞれが自分の考えをもつための補助とする。</p> <p>○行動は二者択一ながら、微妙な心のうちを表現できるような板書にして、理由を交流することで、多様な考え方や感じ方があることに気付けるようにする。</p> <p>★指導者の切り返しは、児童の多面的・多角的な思考を促すものであったか。</p>

	<p>(カラーサイン)</p> <p>4 資料「おれたものさし」の続きを聞き、役割演技を通じて、視点を変えて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・のぼる役…教師 ・「ぼく」役…児童 	<p>○自分の考えが変わったという人の意見を聞く。</p> <p>○周りでみていたみんなは、「ぼく」の行動をどう思っただろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・だいじょうぶかな。 ・のぼるはこわいのにすごいな。 ・ゆう気があるなあ。 ・ありがとう。ぼくも言おうと思っていたよ。 	<p>☆友達の意見を受け止めながら聞くことができたか。(カラーサイン, 発言)</p> <p>○役割演技を見ていたみんなと、「教室で見えていたみんな」は同じ立場であることに気付かせた上で、「ぼく」の行動をどう思っただか感想を聞く。</p> <p>○傍観者の中には、自分と同じように、間違っている行動に気付いておかしいと感じている人がいることを知ることで、自分たちの生活の中で問題場面に出会った時の勇気につながられるようにする。</p>
展開後段	<p>5 自分の生活を振り返るため、再度、ワークシート「心の停留所」に、記入する。(本時の課題を振り返る。)</p>	<p>○今日の学習をしてみて、自分の今の状況に近いところに停留所の印をつけ、変わった理由やふりかえりを書こう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「よくないと思ったら注意する。」～「よくないと思っても注意しない。」の間 ・ひろし君の気持ちを考えると注意した方がいいとも思うけれど、やっぱりこわいから、注意できない。 ・ひろし君がおこられるのはおかしいから、勇気を出して注意してみよう。 ・よくないことをしている人のためにも注意しよう。 ・注意できるようになりたい。 	<p>○机間巡視しながら、どんな感想をもったか(課題に対して、考えの変化など)おおまかに把握しておく。</p> <p>☆よくないことをしている友達を見た時、どうしたらいいか考え判断することができたか。(ワークシート)</p>
終末	<p>6 先生のお話を聞く。</p>	<p>○自分の心の中に「勇気の花をさかせられたらいいね。」という話をする。</p>	<p>○児童の言葉を引用しながら、この言葉につなげる。</p> <p>○学級目標とも結びつけることで、今後の実践意欲につながりやすくなる。</p>



資料選定への思い

みんなが楽しくすごすには、よいこと、正しいことについて、人に左右されることなく、勇気をもって行動することが必要である。「ぼく」と同様に、力の強い子の不正に対して葛藤する過程を通して、子どもたちが生活上の問題に直面したとき、状況を多面的に深く考え判断できる力を養うとともに、周りからも勇気をもって行動することが期待されていること気付くことで、勇気を与えてくれる教材でもある。



主題 「勇気をもって」
本時のねらい

内容項目 1-(3) 善悪の判断, 勇気

主人公の「ぼく」が、まちがった行動をしているのぼるに注意するかしらないかを考え、交流することを通し、正しい行動を愛し、勇気をもってそれを行おうとすることのできる判断力を養う。

10 資料「おれたものさし」